

今日のトピック 中国の鉱工業生産はプラス転換（2020年4月） 全人代で政策パッケージが示され、20年は3%成長へ

ポイント1 鉱工業生産はプラス転換 小売売上高の戻りは緩やか

- 中国国家统计局は15日、4月の主要経済指標を発表しました。4月の鉱工業生産は前年同月比3.9%と市場予想の1.5%を上回り、3月の▲1.1%からプラスに転換しました。前年同月比でプラスとなるのは昨年12月以来です。新型コロナウイルスの影響で急落した1~2月から急速に持ち直し、鉱工業生産の水準も昨年12月を上回りました。品目別では、ハイテク関連の生産の伸びがけん引しました。
- 一方、4月の小売売上高は前年同月比▲7.5%と、3月の▲15.8%から減少率が縮小したものの市場予想の▲6.0%を下回りました。飲食業が▲31%となるなど、消費者の間に感染への懸念が根強く、外食などを控える傾向が続いていることが響きました。

ポイント2 固定資産投資は回復方向

- 1~4月の固定資産投資は前年同期比▲10.3%と、市場予想通りで、1~3月の▲16.1%から減少率が縮小しました。内訳をみると、インフラ投資について単月の前年同月比を計算すると、4月にプラスに転じたことを示しており、投資は緩やかに回復しています。

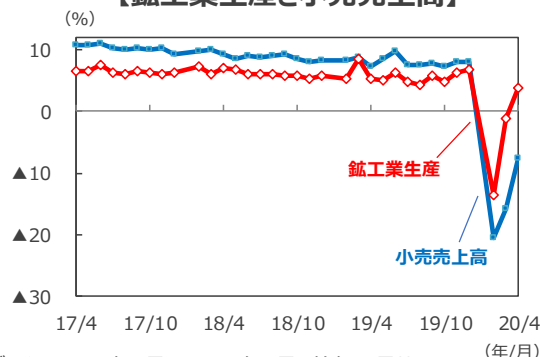
今後の展開 全人代で政策パッケージが示され、20年は3%成長へ

- 中国経済は新型コロナの影響で1-3月期に深刻な打撃を受けたものの、中国はいち早く感染拡大の封じ込めに成功し、4月の生産がプラス転換するなど、経済活動が徐々に回復しつつあります。こうした中、2020年中の「小康社会の実現」に強くこだわっているとみられる習近平指導部は、さらに雇用安定に向けて現金給付を含めた様々な政策対応を行うと思われます。5月22日から始まる全国人民代表大会（全人代）では、雇用確保の観点から積極的な政策パッケージが提示されるとみられます。このため、弊社は、2020年の実質GDP成長率を3.6%、21年を8.3%と予想しています。

ここもチェック! 2020年4月24日 アジア・トーク「注目される中国の景気対策」
2020年4月20日 中国のGDP成長率は初のマイナス

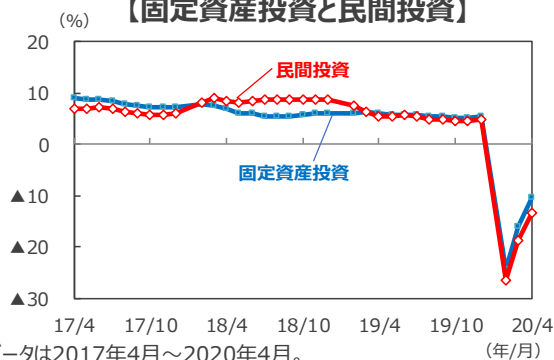
■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。

【鉱工業生産と小売売上高】



(注) データは2017年4月～2020年4月、前年同月比。
各年2月のデータは1～2月の年初来累計の前年同期比。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

【固定資産投資と民間投資】



(注) データは2017年4月～2020年4月。
年初来累計の前年同期比。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成